



2026.1.16 第23号

森田 博



5年「人のたんじょう」

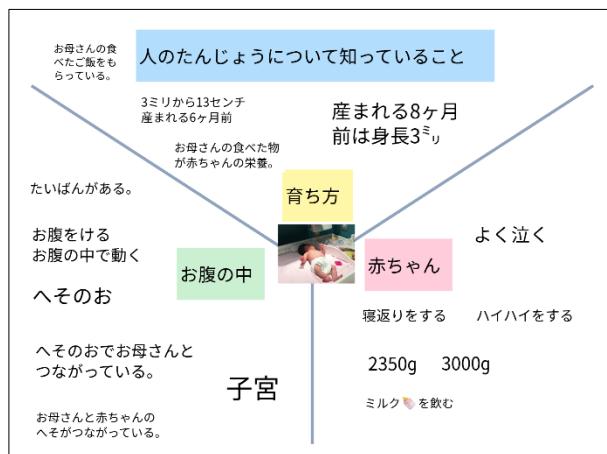
人のたんじょう～子宮の中で育つ赤ちゃん～

5年「人のたんじょう」の学習では、女性の体で作られる卵子と、男性の体で作られる精子が結びつき、受精卵として母親の子宮の中で命をスタートさせるところから誕生までを学習しています。この単元は、自分で課題を決め、図鑑や本、インターネットなどを活用しながら調べ学習として進めています。課題は、①赤ちゃんの体の育ち方（38週の成長過程）②体重・身長の変化（グラフ化）③子宮の役割等から自分で調べたいテーマを選んで決めることにしました。

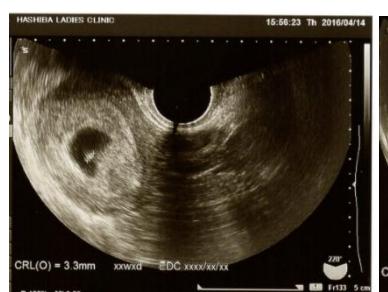
まずは、教室に入る前に職員室で、3,000gの赤ちゃんの人形をお腹に身に付け、エプロンをして妊婦さんの姿になり、5年の各クラスへ入ることにしました。そして、実際に数名に同じ格好をして教室を歩いてもらいました。座椅子の中に入っていて、ひもでくくりつけた簡単な物ですが、「これは重いわ。」「何か月もは、しんどいな。」「腰が疲れそう。」など言いながら歩く姿が印象的でした。



赤ちゃんについて知っていることを、チャートに並べて課題を考えました。「へそのお」「たいばん」「子宮」といった言葉を何となく聞いている子もいました。また、産まれてからの赤ちゃんの様子はたくさん書いている子が多くいましたが、今回の学習内容である子宮での育ち方については、やはり調べないと分からな部分でした。



冬休み中に、市立図書館で貸出をお願いしていた本を子どもたちに紹介し、じっくりと読む時間を設け、ロイロノートに書き込んだり、写真を貼り付けたりしてまとめています。また、毎年資料として、自分の娘のエコー写真で実際の月日と、赤ちゃんの大きさを示したり、心音を聞かせたりしています。1学期の「魚のたんじょう」の学習と違って、人を扱う学習です。自身の経験や、養護教諭の水谷先生にもゲストティ



3.3mmの小さな命



9週目で24.1mmに



顔がはっきりしてきたころ

ナーで授業に入っています。性教育の分野にも少し触れながら、命の大切さや、育ってきた喜びなども感じさせていきたいと思っています。